

第3回「持続可能な京都の海の活用に関するプラン」検討会議 議事要旨

1 日 時 令和8年1月22日（木） 10：30～12：00

2 場 所 京都府庁 農林水産部会議室

3 概 要

・あいさつ（小瀬 京都府農林水産部長）

・議 事

(1)第2回検討委員会の結果(報告) 省略

(2)パブリックコメントの結果及びプラン最終案について(以下、検討委員の主な意見)

- ・地域食材のPRは、農林水産省の「楽し味(たのしみ)プロジェクト」など、より広いネットワークを活用して進めた方がよい。
- ・プランを広く伝えるためにダイジェスト版を作成してはどうか。
- ・プランの進捗を管理するためのPDCAサイクルを意識した体制づくりが必要
- ・人材確保では水産業に女性の参画を促す具体的な施策が必要
- ・今後5年間の取組をまとめたロードマップを作成してはどうか。
- ・数値目標については、設定の背景や根拠の説明を加えるべき
- ・京都は底曳網の資源管理など歴史的にも先進的な取組を続けており、国際的ロールモデルという視点を明確に打ち出すべき
- ・漁業者の知恵と科学をつなぐ重要性や、漁業者が海ごみ回収や藻場保全など“海の守人”として主体的に関わる姿勢をプランに反映すべき
- ・ビッグデータの活用やイノベーションでは、サステナブルパークとの協力を具体的にどう進めるかを描く必要あり
- ・観光の視点として体験型旅行の需要が高まっているため、漁業を交流の場に変える発想は非常に良い
- ・子ども・若者世代に興味を持ってもらうため、学校や教育機関への働きかけが重要
- ・数値目標には、KPIに加えてその先にあるKGI（最終ゴール）を示すと説得力が増す。
- ・地域の魅力を高めるような面白いチャレンジも盛り込めると良い。
- ・ロールモデルという言葉が抽象的なため、取り組みを進める中でモデルの定義を明確化していく仕組みが必要で、将来のプラン更新で位置付けられるべき
- ・舞鶴漁港の電子化が全国でも先進的で、EUで導入された「CATCH」制度のように完全電子化の潮流のなかで大きな強みとなり、これを消費者までつなげてアジアでトップレベルの取組になることを期待
- ・女性の参画が前進すれば大きなムーブメントが起こる。旅行の意思決定に女性の影響力は大きく、観光発信の面でも重要

- ・漁業者に海の保全のための追加負担を求めるのではなく、沿岸漁場管理制度の活用など政策的支援を行い、尊敬される漁師像を形作ってもらいたい。
- ・プランの目指す姿には、きらっと光る一手となるような魅力やわくわく感を盛り込んでほしい。